

「ピリピでの伝道(2)」

使徒16:16~24

1. はじめに

(1) パウロは、トロアスでマケドニア人の幻を見た。

①一行は、ただちにトロアスから船に乗ってマケドニアに向った。

②パウロの旅程

*トロアス→サモトラケ→ネアポリス→ピリピ

③マケドニア州でのパウロの訪問地

*ピリピ、テサロニケ、ベレア

(2) ルカは、ピリピ伝道に最多のスペースを割いている。

①第二次と第三次伝道旅行で訪問したどの町の情報よりも多い。

②ピリピ滞在が短期間であったにもかかわらず、情報量が多い。

③ピリピは、パウロが伝道した最初のヨーロッパの都市である。

④使16:12

Act 16:12 それからピリピに行ったが、ここはマケドニアのこの地方第一の町で、植民都市であった。私たちはこの町に幾日か滞在した。

*植民都市とは、小ローマである。

*その町の住民は、ローマの市民権を持っていた。

(3) 使16:14

Act 16:14 テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。

①ルデヤとその家族が福音を信じ、洗礼を受けた。

(4) アウトライン

①悪霊との対決(16~17節)

②女奴隷の解放(18節)

③迫害(19~21節)

④投獄(22~24節)

結論:伝道の底流

ピリピでの伝道(2)について学ぶ。

I. 悪霊との対決(16~17節)

1. 16節

Act 16:16 私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった。

(1) 悪霊との対決のタイミング

①恐らく、ルデヤが救われた安息日の翌週の出来事であろう。

②パウロの一行は、安息日に祈り場に向っていた。

*ルデヤと他の婦人たちもいっしょに移動していたと思われる。

*目的地は、川岸にある祈り場である。

(2) 「占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った」

①女奴隷は、「パイディスケイ」である。

*使12:13に「ロダという女中」が出て来る。

②この女奴隷は、悪霊の導きによって伝道の邪魔をしようとしたのであろう。

*彼女は、悪霊につかれていた(内面が悪霊によって支配されていた)。

*これは、並の悪霊ではない。

*「占いの霊」は、ギリシア語で「πνεῦμα πύθων」である。

*彼女は、「πύθων」という悪霊につかれていた。

③「πύθων」は、「デルフォイの神託」の背後にいる悪霊である。

*デルフォイのアポロン神殿は、神託を得られる場所として有名であった。

*人々は、戦争、健康問題、投資などについて、神託を求めた。

*アポロン神殿の巫女が、恍惚状態になり、「πύθων」の御告げを聞いた。

*「πύθων」は、神秘的な蛇だと考えられていた。

④この女奴隷は、デルフォイの神託の背後にあるのと同じ悪霊につかれていた。

(ILL) 人気占い師・当たる占い師の店デルフィー 恵比寿駅徒歩1分

(3) 「この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった」

①悪霊の力は現実的なものである。

②悪霊は、偶像礼拝者に利益をもたらすことができる。

③主人たちは、この女奴隷を共同所有し、利用していた。

2. 17節

Act 16:17 彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです」と叫び続けた。

- (1) 彼女は、パウロとその一行のあとについて来た。
 - ①伝道の妨害をするためである。

- (2) しかし、彼女が叫んでいる内容は、間違っていない。
 - ①この人たちは、いと高き神のしもべたちである。
 - ②救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちである。
 - ③彼女は、この情報をどのようにして手に入れたのか。
 - *悪霊どもは、超自然的な知識を持っている。

- (3) 女奴隷の存在が、なぜ伝道の妨害になるのか。
 - ①人々は、パウロが伝えるメッセージと占いの霊が関連していると誤解する。
 - ②イエス・キリストの福音の純粋性が、悪霊との関連づけによって汚される。

II. 女奴隷の解放(18節)

1. 18節

Act 16:18 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け」と言った。すると即座に、霊は出て行った。

- (1) 「幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、」
 - ①なぜパウロは、もっと早く対応しなかったのか。
 - ②人の心を開くのは神の御業であるが、悪霊の追い出しもそれと同じである。
 - ③悪霊の追い出しのタイミングが、まだ来ていなかった。
 - ④神はパウロに伝道の機会を与えていた。
 - ⑤悪霊の追い出しが起こると、パウロは町を去らねばならなくなる。

- (2) パウロは悪霊の追い出しを行った。
 - ①直接悪霊に語りかけた。
 - ②イエス・キリストの御名によって命じた。
 - *イエス・キリストがパウロを通して悪霊を追い出している。
 - ③命令の内容は、「この女から出て行け」である。
 - ④悪霊は即座にその命令に従った。

- (3) この女が信者になったかどうかは、記されていない。
 - ①これほどの体験をしたのだから、信者になったに違いない。

②ルカは、この出来事がどのような結果をもたらしたかに関心がある。

Ⅲ. 迫害(19～21節)

1. 19～20節 a

Act 16:19 彼女の主人たちは、もうける望みがなくなったのを見て、パウロとシラスを捕らえ、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。

Act 16:20a そして、ふたりを長官たちの前に引き出してこう言った。

(1) 主人たちは激怒した。

①女奴隷が正気に戻ったので、彼女を使って儲けることができなくなった。

②彼らは、パウロとシラスを捕らえて、訴えた。

③これまでの迫害は、ユダヤ人たちから来た。

*原因は、福音宣教に対する反発であった。

④この町にはユダヤ人がいないので、迫害は異邦人から来た。

*原因は、経済的損失から来る怒りである。

(2) 裁判は、広場(アゴラ)で行われた。

①植民都市には、2人の長官が置かれていた。

②「役人」と「長官」は、同一人物である。

③長官は、ギリシア語で「ストウラテゴイ」。

*文語訳では「司」と訳されている。

*2人の長官が裁判官であった。

2. 20b～21節

Act 16:20b 「この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、

Act 16:21 ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」

(1) 女奴隷の主人たちは、本当の動機を隠して訴えを起している。

①経済的損失というテーマを愛国心というテーマに切り替えている。

(2) この訴因には、反ユダヤ的要素が存在している。

①この者たちはユダヤ人である。

②私たちの町をかき乱している。

③ローマの宗教があるのに、非合法的な宗教を伝えようとしている。

*ユダヤ教には、公認宗教としての地位が与えられていた。

*しかし、ローマ市民を改宗させることは違法であった。

④主人たちも、長官たちも、ユダヤ教とキリスト教の区別をつけていない。

IV. 投獄(22~24節)

1. 22~23節

Act 16:22 群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、

Act 16:23 何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。

(1) 植民都市における反ユダヤ的雰囲気

①紀元49年か50年に、クラウデオ帝はすべてのユダヤ人をローマから追放した。

②反ユダヤ的雰囲気は、ここピリピにまで伝わっていた。

③群衆は、理由なくしてふたりに反対して立った。

(2) 長官は、事実関係を調査しないで、結論を出した。

①むち打ち

②投獄

(3) むち打ち

①パウロはなぜ自分がローマ市民だと言わなかったのか。

*群衆の声に、パウロの言葉がかき消された可能性がある。

②どれくらい激しいむち打ちであったかは、書かれていない。

*何度もむちで打たせたとある。

*パウロは、合計3度のむち打ちを経験している。2コリ11:25。

*1テサ2:2

1Th 2:2 ご承知のように、私たちはまずピリピで苦しみに会い、はずかしめを受けたのですが、私たちの神によって、激しい苦闘の中でも大胆に神の福音をあなたがたに語りました。

(4) 投獄

①「看守には厳重に番をするように命じた」

*看守は、命懸けで番をするように命じられた。

2. 24節

Act 16:24 この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。

(1) 看守は、パウロとシラスを重罪犯のように扱った。

①看守は、通常は退役軍人になった。

*上官の命令に忠実である。

*戦闘能力がある。

②看守の地位は、百人隊長クラスと思われる。

(2) 「奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた」

①獄舎の中の一番奥に造られた、窓のない牢である。

②逃亡の危険をなくすために、足かせまで掛けた。

結論：伝道の底流

1. 福音は、すべての人に救いをもたらす神の力である。

(1) ルカは、ピリピで信者となった3人の人たちを描いている。

①ルデヤ(上流階級の裕福な婦人)

②女奴隷(下層階級の貧しい女)

③看守(中流階級の代表)

2. 福音を聞く人の心を開くのは、主である。

(1) 使徒の働きは、生けるキリストの働きの記録である。

3. 福音を受け入れた人は、天国の市民権を持つようになる。

(1) ピリピの住民たちの誇りは、ローマの市民権である。

(2) クリスチャンの誇りは、天国の市民権である。

①地上に住みながら、天国の市民権を持っている。

②クリスチャンにとっては、地上は天国の植民地である。

③私たちは主イエス・キリストが再臨されるのを待ち望んでいる。

4. 福音を伝える人は、光の国と闇の国の戦いに巻き込まれている。

(1) 神は、神の国を完成させようとして働いておられる。

①神の国の臣民は、聖なる天使たちと救われた人たちである。

②神の働きが前進する方法

*神の直接的な介入

*天使たちの働き

*人間の働き

(2) 悪魔は、悪魔の国を造ろうとして働いている。

①悪魔の国の臣民は、墮落した天使たちと罪人たちである。

②悪魔の働きが前進する方法

*悪魔の直接的な介入

*悪霊どもの働き

*罪人たちの働き

(3) 光の国と闇の国の衝突

①ルカ4:33~35

Luk 4:33 また、会堂に、汚れた悪霊につかれた人がいて、大声でわめいた。

Luk 4:34 「ああ、ナザレ人のイエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」

Luk 4:35 イエスは彼をしかって、「黙れ。その人から出て行け」と言われた。するとその悪霊は人々の真ん中で、その人を投げ倒して出て行ったが、その人は別に何の害も受けなかった。

②ルカ8:28

Luk 8:28 彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いします。どうか私を苦しめないでください。」

③使19:15

Act 19:15 すると悪霊が答えて、「自分はイエスを知っているし、パウロもよく知っている。けれどおまえたちは何者だ」と言った。

*ユダヤの祭司長スケワという人の七人の息子たち

④ルカ4:18~19

Luk 4:18 「わたしの上に主の御霊がおられる。／主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、／わたしに油をそそがれたのだから。／主はわたしを遣わされた。／捕らわれ人には赦免を、／盲人には目の開かれることを告げるために。／しいたげられている人々を自由にし、

Luk 4:19 主の恵みの年を告げ知らせるために。」